

# 筑波教育学研究

第 4 号

2006年3月

筑波大学教育学会

# 目 次

## 〈巻頭言〉

コミュニケーション方略と学び

塚 田 泰 彦 i

## 〈依頼論文〉

教師と学校教育改革 ..... 亀 井 浩 明 1

## 〈投稿論文〉

Duration Analysis of High School Dropout Risks in the United States:  
An Application of Survival Analysis  
to U.S. High School Student Data  
..... Satoshi P. WATANABE 17

多文化教育と日系アメリカ人の  
ナショナルアイデンティティ ..... 岡 本 智 周 47

教師の悩みと成長・発達に関する研究の展望  
—生徒との人間関係における  
悩みに焦点をあてて— ..... 都 丸 けい子  
庄 司 一 子 65

大学生の「居場所環境」と自我同一性との関連  
—現在と過去の「居場所環境」に対する  
認知との比較を中心として— ..... 杉 本 希 映  
庄 司 一 子 83

中学生の教師に対する信頼感と  
不登校傾向との関連 ..... 中 井 大 介  
庄 司 一 子 103

小学生の読解力は低下しているのか？

—読書力診断検査を用いた実態把握と

児童の類型化を通じた検討— …………… 田 中 耕 司 117

物語の教材化プロセスにおけるアイデンティティの移行

—ある教員志望学生の語りを事例として— …… 石 田 喜 美 141

〈研究ノート〉

地域における子育て支援ネットワークの構築

—リソースとサービスの視点から— …………… 飯 田 浩 之  
渡 辺 恵 159

〈研究動向〉

留学史研究の回顧と展望

—欧米—日本—アジアの「知」の

連環と構造を考える— …………… 平 田 諭 治 177

〈書評〉

堀 智晴著

『保育実践研究の方法

—障害のある子どもの保育に学ぶ—』…………… 園 山 繁 樹 193

小島弘道編著

『校長の資格・養成と大学院の役割』…………… 服 部 次 郎 199

窪田眞二・木岡一明編著

『学校評価のしくみをどう創るか

先進5カ国に学ぶ自律性の育て方』…………… 水 本 徳 明 205

〈図書紹介〉

三上敦史著

『近代日本の夜間中学』…………… 大 崎 功 雄 211

渡辺雅子著

『納得の構造—日米初等教育に見る

思考表現のスタイル—』 ..... 宮 寺 晃 夫 215

学会彙報（平成17年1月～12月） ..... 219

筑波大学教育学会会則・諸規定（抄） ..... 222

『筑波教育学研究』投稿規程 ..... 225

編集後記 ..... 226

# 学会彙報（平成17年1月～12月）

平成17年1月から12月までの学会の主な事業・活動は以下の通りである。

## 1. 第4回学会大会

平成17年3月19日(土)に筑波大学附属小学校を会場として開催された。下記に紹介するように、午前の自由研究には11件の報告があり、午後からはシンポジウムが開催された。学会大会参加者は約60人であった。

なお、学会大会期間中に全国理事会（出席理事15名）と総会が開催された。

### 第1分科会 司会 新井 保幸（筑波大学教育学系）

#### 1. 1930年代を巡る教育と『綴方生活』

飯田 和明（筑波大学附属中学校）

#### 2. 池袋児童の村小学校の研究(1)

門脇 厚司（筑波学院大学）

#### 3. 「日本の政教分離原則」研究—国立大学キャンパス神社訴訟の違憲判決—

藤原 英夫（帝京大学）

#### 4. 保護者・教師の意識の変遷について

—教師が親に語ることの大切さをいま一度考える—

井上 正允（筑波大学附属駒場中・高等学校）

### 第2分科会 司会 江口 勇治（筑波大学教育学系）

#### 1. 高等学校における教員組織の活性化に関する研究

—民間人校長による経営実践の検討を中心に—

藤村 寿一（筑波大学（院・修）教育研究科）

#### 2. 中高一貫校における才能教育とリーダー育成のためのカリキュラム開発研究(1)

—卒業生調査の結果を中心に—

○田中 統治（筑波大学人間総合科学研究科）

○根津 朋実（同上）

藤田 晃之 (同上)

井上 正允 (筑波大学附属駒場中・高等学校)

3. リーダー形成教育の一視点—中学・高校生のリーダー観をめぐって—  
須藤 敬 (筑波大学附属駒場中・高等学校)

第3分科会 司会 大平 典男 (筑波大学附属学校教育局)

1. 学級単位の社会的スキル訓練が児童の対人的自己効力感に及ぼす影響  
○塚田 裕子 (筑波大学 (院・修) 教育研究科)  
庄司 一子 (筑波大学教育学系)

2. 教育実習という名のフィールドワーク—特に社会科の場合について—  
野口 剛 (筑波大学附属高等学校)

3. ディスコースによる高等数学の授業改革に関する実践的研究  
倉井 庸維 (東京都立田柄高等学校)

4. 興味と努力を喚起する教育的因子  
—学生の入学時から前期課程における学習内容の形成変化から抽出する—  
見目 節子 (つくば国際大学)

◇シンポジウム

『総合的な学習の時間と「確かな学力」』

シンポジスト：服部 次郎 (筑波大学附属坂戸高等学校)

館 潤二 (筑波大学附属中学校)

岩間 敏彦 (茗溪学園)

指定討論者：佐野 享子 (筑波大学教育学系)

森田 和良 (筑波大学附属小学校)

司会：坪田 耕三 (筑波大学附属小学校)

窪田 眞二 (筑波大学教育学系)

## Ⅱ. 会員名簿作成

前回の会員名簿作成時より3年が経過したために、全会員の協力を得て情報を収集し、12月に新会員名簿を発行した。

## Ⅲ. 学会会報

第7号を6月15日、第8号を12月15日に発行した。

## Ⅳ. 12月末現在会員数：337名

## 筑波大学教育学会会則

第1条（名称） 本学会は、筑波大学教育学会（The Academic Society for Education of the University of Tsukuba）と称する。

第2条（目的） 本学会は、教育学研究の向上をはかり、会員の研究の交流協力につとめつつ、併せて会員相互の親和連絡を深め、教育文化の進展に寄与することを目的とする。

第3条（事業） 本学会は、前条の目的を達成するために次の各号の事業を行う。

- (1) 年次大会の開催
- (2) 研究会の開催
- (3) 研究紀要の発行
- (4) 会報の発行
- (5) 内外の学会等との交流
- (6) 会員の研究交流
- (7) その他、本学会の目的を達成するのに必要な事業

第4条（会員） 本学会の会員は、次の各号の一に該当する会員で組織する。

- (1) 筑波大学教育学系教職員（転・退職教員を含む。）
  - (2) 筑波大学大学院修士課程及び博士課程の教育関連専攻もしくはコース等の在学者、修了者及び中退者
  - (3) その他本会の趣旨に賛同して入会を希望する者
- 2 会員は、会費年額4,000円を納入するものとする。但し、学生会員は3,000円とする。

第5条（運営） 本学会は、会務の運営のため、次の委員をおく。

- 会長 1名、理事 20名、顧問 若干名、幹事 若干名、監査 2名
- 2 役員は、前条（1）及び（2）の会員より選出する。

- 3 役員選挙規定は、別に定める。
- 4 前項の規定にもかかわらず、会長は、当分の間、教育学系長がこれにあたる。
- 5 役員任期は2年とする。

第6条（編集委員会） 本学会に編集委員会をおく。編集委員会規定については、別に定める。

第7条（総会） 本学会は、年一回総会を開き、本会の重要事項を審議決定する。

第8条（事務局） 本学会は、事務局を〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1、筑波大学教育学系に置く。

附則 本会則は平成14年3月5日より施行する。

## 筑波大学教育学会研究紀要編集委員会規程

- (1) 本学会は、会員の研究発表の場として、機関誌『筑波教育学研究 (Tsukuba Journal of Education Study)』を発行する。発行は、年1回(12月)とする。
- (2) 編集委員会は、理事会の委嘱を受けた委員長及び委員10名によって構成される。委員長及び委員の任期は、2年とする。
- (3) 会員は、投稿の資格を有する。投稿原稿は、原著論文とする。
- (4) 編集委員会は、会員以外の者に原稿を依頼することができる。
- (5) 原稿の採択は、編集委員会での査読と審議を経て、決定する。
- (6) 編集委員会は、掲載予定の原稿について、投稿者との協議を通じて、内容の修正を求めることができる。
- (7) 投稿細則は、別に定める。

## 『筑波教育学研究』投稿規程

1. 投稿者は筑波大学教育学会会員であること。ただし依頼論文についてはこの限りではない。
2. 機関誌への投稿内容は、未刊行のものに限る。
3. 論文の投稿は、原則として、ワードプロセッサを使用し、横書き、A4版用紙1頁あたり40字×30行で作成し、注および引用文献を含めて16,000字（400字詰め原稿用紙40枚相当）程度とする。欧文の場合は注および引用文献を含めて6,000語程度とする。
4. 原稿の締め切りは9月末日とする。
5. 論文には邦文タイトルと英文タイトルを付記するとともに、邦文による400字程度のサマリーを付す。
6. 投稿にあたっては、原稿3部、およびMS-DOSテキストファイルに変換したフロッピー1部を送付するものとする。原稿およびフロッピーは原則として返還しない。
7. 研究論文とは別に、研究ノート、実践報告の投稿も受け付ける。その際、規定3-6項に準拠する。
8. 図版等で特定の費用を要する場合、執筆者に負担させることがある。
9. 原稿は、氏名（ふりがな、および英文表記）、所属（ふりがな、および英文表記）、自宅住所（郵便番号、電話番号）、利用可能な場合、ファックス番号、メールアドレスを付記して、下記に送付するものとする。

### 記

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学教育学系内 筑波大学教育学会編集委員会

---

#### お詫びと訂正

『筑波教育学研究』第3号に誤植がありました。お詫びして訂正いたします。

目次および185ページ：

誤：『徂徠学の教育思想—日本近世教育思想史における「ヴェーバー問題」—』

正：『徂徠学の教育思想史的研究—日本近世教育思想史における「ヴェーバー的問題」—』

## 編集後記

『筑波教育学研究』第4号が完成致しましたので、お届けいたします。

第4号では、日本連合教育会会長であり帝京大学名誉教授でもあられる亀井浩明氏に、「教師と学校教育改革」というテーマで、ご執筆いただきました。今まさに社会的関心を集めているテーマについてご執筆いただき、編集者一同、お礼申し上げます。

投稿論文は、審査委員による審査の結果、9編のうち8編が採択されました。したがって第4号の内容は、依頼論文1編、投稿論文8編のほか、研究動向1編、書評3編、図書紹介2編、という構成になりました。また、第4号にて「投稿規程の変更」をお知らせ致します。「欧文の分量に関する規定」が加わりました。今後の投稿の際の参考にさせていただきたいと存じます。

以上、この第4号は皆様のお力添えのおかげで、これまでの3号に加えるに足る、一層充実したものになったのではないかと存じます。

教育をどう考えるのか。どうするのか。どうしていききたいのか。

この『筑波教育学研究』を通して、発信し続けて参りたいと存じます。多くの会員の方々に投稿・ご協力いただき、より充実した内容になるよう、編集者一同、今後も努力して参りたいと存じます。編集に関しましても、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せ頂けると幸いです。

(庄司一子)

# 筑波大学教育学会編集委員会

## 編集委員会委員長

塚田 泰彦 (筑波大学)  
(tsukada@human.tsukuba.ac.jp)

## 編集委員会

秋川 陽一 (倉敷市立短期大学)  
大崎 功雄 (北海道教育大学)  
岡部 善平 (小樽商科大学)  
岡本 智周 (筑波大学)  
小島 弘道 (筑波大学)  
庄司 一子 (筑波大学)  
鶴岡 義彦 (千葉大学)  
野島 正也 (文教大学)  
宮寺 晃夫 (筑波大学)

## 編集幹事

石田 喜美 (筑波大学大学院)  
(kimish@human.tsukuba.ac.jp)

## 筑波教育学研究 第4号

---

2006年3月10日 発行

編集・発行 筑波大学教育学会  
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1  
印刷 株式会社いなもと印刷  
電話 029(826)1221

---